

GIGA スクール

日常使いから新たなチャレンジへ

神奈川県 横浜メディア教育研究会
代表 後藤 大二郎

- ① GIGA 端末の活用から効果的な活用、授業改善への道標
- ② オンラインによる全国各地からの参加
- ③ ワークショップと実践提案による情報提供、情報交換
- ④ ハイフレックス（対面&オンライン）を取り入れた研究会運営

1 はじめに

横浜メディア教育研究会は、2008年1月に発足し年数回の研究会を重ねてきた。

メディアとは、ヒト・モノ・コト相互を繋げる媒体である。ICTに限らず授業デザインの核として捉えて、議論してきた。コロナ禍によってオンライン開催を中心

表1 おもな活動の記録

回	月/日	活動場所	研究活動内容
1	4/9 (土)	オンライン	横浜市立仏向小学校 東森清仁先生 「1人1台端末を使った授業づくりワークショップ」
2	7/9 (土)	オンライン	横浜市立茅ヶ崎台小学校 今村俊輔先生 実践提案「ブッククラブをしよう ～リーディングワークショップ～」
3	8/27 (土)	ウィリング横浜 ハイフレックス	鳥取県教育センター 岩崎有朋先生 「PBLによるSTEAM教育」
4	11/19 (土)	オンライン	関東・九州実践交流会 子どもと学びをつなぐヒト・モノ・コト
5	1/21 (土)	横浜市立 神大寺小学校 ハイフレックス	D-Project、日本デジタル教科書学会とのコラボ研究会 「自律的に学ぶ学習者の育成を目指して ～教科特性と一人一台端末の授業づくり～」
6	3/10 (金)	オンライン	宝仙学園小学校 吉金佳能先生 実践提案「ICTで変わる理科（予定）」

にしたことで参加地域が広がり、現在では北海道から九州まで全国の先生方が集いワークショップや実践提案を行っている。また、先生方だけではなく、ICT企業の方、学生、教育行政の方、保護者など誰でもウェルカムな研究会である。興味がある方は、横浜メディア教育研究会のサイト (<https://www.freedu.jp/category/media/>) に活動記録の詳細と研究会の案内を掲載しているのので、確認していただきたい。

今年度は、「GIGA スクール 日常使いから新たなチャレンジへ」をテーマに、6回の研究会を実施した。概要は表1の通りである。

2 活動内容

第1回 「1人1台端末を使った授業づくりワークショップ (オンライン模擬授業)」

日 時：2022年4月9日 (土) 14:00～

場 所：zoomにて開催

講 師：東森清仁 先生 (横浜市立仏向小学校)

第1回は、NHK for School「考える授業やるキット」を使ったワークショップをしていただいた。今回は、ふしぎエンドレス理科3年「虫はどこにいる？」やるキット (https://www.nhk.or.jp/school/yarukit/rika/endless3/D0005110388_00000.html) を使った模擬授業である。

まず、子ども役の参加者に身の回りで見つけた「虫」の発表をしてもらった。次に、動画を視聴した。動画では、身の回りの虫としてモンシロチョウやカマキリ、ダンゴムシ、トンボなどが紹介され、どんな虫がどこにいた？という、質問が投げかけられた。その後、発見した虫をどこで見つけた

か、ジャムボードを使って記録するページが紹介され、記録の仕方を教わった。授業では、タブレットを屋外に持ち出し、見つけたその場で記録をすることを想定しているとのことであった。

ある程度、見つけた虫が出揃ったところで、「くらべてみると」というのにチャレンジした。例えば、「はねでとぶ」というつながりや違いを見つけて、仲間づくり・仲間分けをしていった。



理科授業においては、このように分類をしたことで、生き物の生息環境に関連付けていくことができるように支援することが重要だ。やるキットでは、このように活動のサポートになるだけではなく、授業でおさえなければならないねらいについても掲載されている。また、ワークシートなどは、授業で使うにあたってカスタマイズすることも可能である。さらに、様々な情報も一緒になっているので、授業づくりに大いに活用できるようになっている。模擬授業はここまでだった。

ブレイクアウトセッション&共有タイムでは、「教師が子どもたちの意見を発散させたり収束させたりする場やタイミングをどうコーディネートしていくか、それに合わせてツールをどう使っていくかといったこと」、「Jamboardの使い方のアイデアとして地図を背景にして写真を集めて貼

る、研修での活用、アプリのアップデートの情報など」「保護者の立場から、端末の持ち帰りがあると子どもと一緒に勉強していけるので、学校ではそのような活用もぜひしてほしいという意見」「Jamboardなどグーグルのアプリの使い方には、地域差があること、このようなツールを授業に活用することで、決まった子だけが発言するのではなく、いろいろな子の意見が反映できるのがいい」などの意見が交わされた。

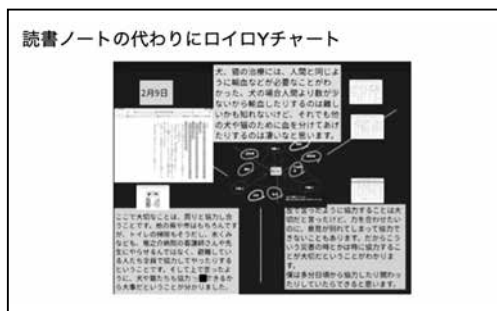
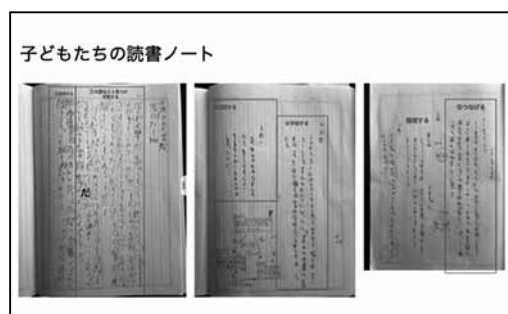
第2回 「ブッククラブをしよう ～リーディングワークショップ～」(実践提案)

日時：2022年7月9日(土) 14:00～

場所：zoomにて開催

講師：今村俊輔 先生(横浜市立茅ヶ崎台小学校)

今村先生は、横浜市立小学校に勤務するとともに、D-Project 関東スプラウトで代表を務め、日々授業研究、授業改善に意欲的に取り組まれている。今回は、これまで実践されてきた国語科の学習に加えて、GIGA 端末を自然と取り入れた「リーディングワークショップ」の実践も紹介していただいた。



国語科の読むことの指導事項に基づき、登場人物の相互関係や心情を読み取り、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、意見や感想を共有して自分の考えを広げたりすることをねらいにしていた。

単元は8時間である。まず、選書をして計画を立てる。決められた範囲を読んでノートにまとめ、その部分についてブッククラブを行う。ブッククラブを数回行った後、全体を振り返って友達にブックレターを送る。

実践提案では、読書ノートを基に子どもたちが話し合う様子が紹介された。そこでは、友達の発言に対して、文章中に繋がりや考えの根拠を見つけて出し合い、場面の理解を深めていく様子が見られた。

活動後、子どもたちのアンケートからは、「物事を深く考えられるようになった」「本が少しずつ好きになった」「読んだ感想を自然と言えるようになった、そこから深い問いを出せるようになった」など、自分の成長を実感する声がたくさん聞かれた。

今村先生は課題として、「子どもたちに選書を任せているために本の理解が難しい子がいること」「メンバー間での活動に対する温度差があること」「優れた読書家の技法の偏り」の3点を挙げていた。個別にフォローしたり、ミニレッスンや例示をしたりすることで、さらに充実した活動にな

るように指導しているとのことであった。

ブレイクアウトセッション&共有タイムでは、「教科書の取り扱いについて」「読むことの指導について、学力の差をどのようにしていくか。子どもに読ませるから、子どもが読みたいという気持ちになる指導が大切だ。」「教師がどのように仕掛けることで、このように話し合いができるようになるのか」「途中まで読んでから、話をするのが面白いと思った。苦手な子でも取り組みやすく、それが続きを読むモチベーションになっていた。」などの話し合いがあった。

第3回 「PBLによるSTEAM教育」(ワークショップ)

日時：2022年8月27日(土) 14:00～

場所：ウィリング横浜(対面) & zoom
(オンライン)

講師：岩崎有朋 先生(鳥取県教育センター GIGA スクール推進課係長)

岩崎先生は、鳥取県の中学校教諭の経験を経て、鳥取県教育センターで勤務をされている。GIGA スクール構想がひと段落して、今はデジタル田園都市構想に向けた教育での取り組みにご尽力されている。PBLによるSTEAM教育について、「進まないんだけど、どうしたもんかね?」という問題意識のもと、話をしていただいた。

PBLとは、実世界(自分の手の届く範囲、身近な取り巻く社会)に関する複雑な問題をプロジェクトとして扱う学習である。その学習過程は、一般的な研究活動(テーマ設定、仮説、先行研究のレビュー、情報を調査、考察、発表・レポート)と同様である。STEAM教育とは、各教科等に固有の知識や考え方を統合的に働かせて解決する、分

離の枠を超えた学びのことであり、こちらも実社会の課題解決に向けた学習のあり方である。

ワークショップでは、架空の中学校の総合的な学習の時間の指導計画を見直す活動を行った。Google クラウドにアップされた課題に対して、Jamboard を使って整理・分析した。具体的には、指導計画を「テーマ探索」「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究のプロセスに分解し、当てはめていった。

サンプル事例では、「整理・分析」が抜けていた。改善する具体的な手立てとして、統計による分析、思考ツール、テキストマイニングなどで分析することが示された。また、思考ツールなども、活用できる場面だった。そこで、どのような手立てができそうか、参加者でアイデアを出し合った。



手立てを協働して開発することを通じて、各校で実践に挑戦し、実績が重なっていくことで子どもたちがワクワクしながら学習に取り組み、よりよい社会へと発展していく学習がイメージされた。岩崎先生からの「今、できていないことは、マイナスではない。次の授業への道標です。ぜひチャレンジしていきましょう!」との激励の言葉をいただいて、会が終了した。

第4回 「子どもと学びをつなぐヒト・モノ・コト」 関東九州実践交流会

日時：2022年11月19日（土）14：00～
場所：zoom（オンライン）

「よい教育とは何か」というものを探っていくためには、「これがよい教育である」と考える実践を持ち寄り、確認し合う営みを続けていくことが大切である。今回は、関東・九州実践交流会を行うことで、それぞれの地域での優れた取り組みを基に話し合った。

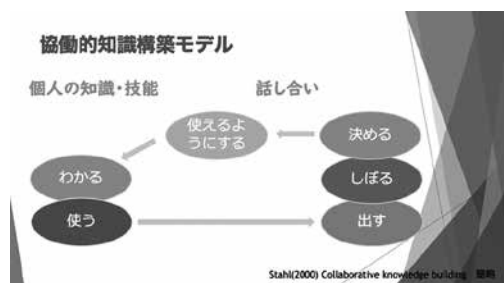
<中学・高学部会>

- 佐賀大学教職大学院 大串 平 先生（中学校第2学年社会科）「東京に住んでいる人に九州地方の魅力を知ってもらおうー拡張的学習の理論の道具に着目してー」
- 佐賀大学教職大学院・佐賀県立唐津西高等学校 山口 崇 先生（高等学校第3学年社会科地歴総合）「持続可能な地域づくりを目指して『地域の防災・減災』ー拡張的学習に着目したGISと防災教育の実践を通してー」
- 西東京市立田無第二中学校 片山 亮志 先生（中学校第2学年数学科）「平行と合同」

<小学校部会>

- 神奈川県横浜市立白根小学校 宮崎 憲太 先生（小学校第4学年算数科）「どっちが広い？4年生が掃除する面積を明らかにしよう」
- 熊本県小国町立小国小学校 甲斐 昌平 先生「6年生 教科横断でのタブレット活用」
- 熊本県小国町立小国小学校 島田 翔

太 先生（小学校第4学年社会科）「自然災害からくらしを守る『地震からくらしを守る』」



第5回 D-Project、日本デジタル教科書学会とのコラボ研究会

「自律的に学ぶ学習者の育成を目指して～教科特性と一人一台端末の授業づくり～」
日時：2023年1月21日（土）12：30～
場所：横浜市立神大寺小学校（対面） & zoom（オンライン）

例年、D-Project 関東スプラウトと横浜メディア教育研究会が協働して開催していた研究会に、日本デジタル教科書学会のご支援をいただき、開催することができた。今年度のねらいは、不安と混乱を超え、GIGA スクール構想のめざすところを、再度、共通理解をすることと、1人1台端末環境を生かしての地道な「授業研究」を進めることだった。

意欲的な実践者と研究者が共に問題解決的に研修を実施することは、互いの考えの交流を生み、次の授業への意欲とアイデアへとつながる様子が見られた。また、新たなヒューマンネットワークが形成され、今後、継続的に研究していこうという話も聞こえてきた。密度の濃い交流ができる対面開催のメリットとオンラインでも参加できる幅の広さが発揮された会となった。



第6回 「ICTで変わる理科（仮）」(実践提案)

日 時：2023年3月10日（金）（予定）

場 所：zoom（オンライン）

講 師：宝仙学園小学校 吉金佳能先生

原稿執筆時において、まだ未実施である。そのため、第6回研究会の様子は、当研究会HPをご覧ください。

その他

各回において、事務局メンバーによるミニ実践提案を行った。GIGA 端末を活用した授業実践として、国語の読む単元における心情曲線を共有する授業、生活科において野菜の成長記録写真に書き込みをした授業、学級活動においてイラストを使ったレクリエーション等、各学級で明日から使える実践アイデアが紹介された。ブレイクアウトセッションで話題になるなど、参加者からも好評だったので今後も継続する予定である。

3 まとめ

GIGA 端末の活用については、日常的に活用している自治体・学校・学級とかなかなか使用に至らないところがある。教師が

授業のイメージをもつことが肝要であるという考えのもと、活動を続けてきた。参加者からは、「子どもの姿に感動した。」「不得意な分野についても実践の可能性について知ることができてよかった。」「ワークショップで学んだことを授業に生かしてみたら、学習者が意欲的に活動することができて大変役に立った。」などの意見が聞かれた。

今後も、この研究会で議論された実践やその成果について、HPを中心に発信していく。さらに、研究会での議論をもとにした実践について、継続して検討していけるような研究会のデザインも考えているところである。今後も活動を継続していくことで、ヒトとヒトが繋がり、新たな授業の形として子どもの学びの可能性が広がっていくことを期待している。授業づくりに少しでも興味・関心があれば、どなたでもウェルカムである。是非、皆様と一緒に活動できことを楽しみにしている。

横浜メディア教育研究会 HP



(代表：後藤大二郎)